

うえるうえる

Well Well

第21号

あけまして
おめでとう



開院以来8年間玄関ホールを飾る浜田種子先生の作品

新年のご挨拶



坂井瑠実クリニック院長
喜田 智幸

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願い申し上げます。

昨年は腎移植に関する事件報道が続きました。腎不全患者の皆さんは、移植はこれからどうなっていくのだろうと、心配されたと思います。この原稿を書いている時点で刑事罰に問われているのは、移植者と腎提供者間の金銭授受問題についてのみです。その後発覚した病気腎の移植については、はっきりとした決着はついていません。前者は倫理的に問題があり、法的に違反であることから処罰の対象になったようです。ただ医学的には通常の生体腎移植と同じで、海外渡航による移植と同様に倫理的に問題があり、してはいけないことです。が身体に悪いわけではありません。しかし、後者の病気腎移植は倫理上、医学上のどちらにも問題があると考えます。病気で必要のないものだから具合が悪いかもしれないが、死を待つしかない透析患者さんだったら移植をしてもよいという理屈は医学的におかしな話です。まず透析患者さんは腎臓が悪いという理由でお亡くなりになりません。不幸な事に痛などで死を待つ透析患者さんはいらっしゃいますが、その状態で移植を勧める事はあまり無いでしょう。それから機能のある腎臓を摘出するのも問題ですが、その病気の腎臓が本当に他人の中で正常に機能し悪影響が無いのが不明というのも大きな問題です。例えば癌に冒された腎臓を他人に移植しても大丈夫という検討がなされていません。一般的には、移植患者さんは免疫抑制剤を服用するため、癌には通常以上に注意しないといけないとされています。したがって癌組織のある臓器の移植は危険と考えられますが、現実ではありません。もし逆に、移植された臓器の癌が成長しない事が医学的に証明されれば、腎臓以外の臓器も含め、癌の臓器の生体移植はもっと積極的に進めても良いと考えます。

これまでマスコミは、医学上の問題より感情論に重きを置いた報道をしているようにみうけます。感情は曖昧ですので、このような重要なことを判断するのは危険です。日本では医療者を信頼できないという感情的な理由や死の定義等の問題もあり、あまり移植がなされていません。本当に必要なのは医学的な検証を行っていく、必要な移植を日本国内で行っていく体制を作っていくことだと思います。情に訴え、小さい子供の海外での移植のための手伝いをするマスコミが、脳死での臓器移植を積極的に応援しないのはおかしなことです。今年の私の願いの一つは、移植がもっと行われるように法律を含め、色々なシステムが確実に機能するようになることです。

第2回長時間透析研究会開催

長時間・隔日透析を推奨する当クリニックからも、
坂井理事長と5名のスタッフが参加し、演題を発表しました。

H18年12月9日

< 於：北海道岩見沢市 >



理事長
坂井瑠実

第2回長時間透析研究会が昨年12月9日、岩見沢クリニック千葉先生の主管の下、北海道岩見沢市で開催された。千葉先生は週4回6、6、6、3時間の透析を実践されていられている先生である。研究会開始前に行われた幹事会で、長時間透析とは「1回の透析時間を6時間以上、週3回以上の透析とする」との合意を得た。長時間透析と日本の透析医療の現状では、週3回透析が94%、4時間及びそれ以下の透析が87.7%、6時間以上はわずか0.3%と報告された。研究会において、長時間透析の成果として、10年生存率は全国平均40.7%に比べ長時間透析施設では68.8%で生命予後は非常に優れている。貧血改善に有効で、長時間頻回透析でエリスロポエチン(EPO)の無投与例が59.3%(通常透析14.3%)とほぼ60%の患者さんにEPOが必要でなくなった。透析アミロイドシス(CTS)の発現抑制効果の可能性がある等々の発表があった。また長時間透析は、透析の後、休憩しなくても普通

通に行動でき、むしろ時間を有効に使えるのでよいと患者さんが評価し、受け入れている事と、透析中血圧低下や下肢つり等のトラブルが全くと言ってよいほどないので「スタッフが楽」という発言は興味深かった。坂井瑠実クリニックからは坂井が心血管合併症の予防、治療のためには2日空きをつくらない「隔日透析」の必要性を報告した。

第3回の研究会は10数年前から全患者さんに6時間透析を行っておられる前田病院前田先生の主管で佐賀県伊万里市で行われる。ちなみに佐賀県は日本一の長時間透析県である。(兵庫県はワースト2)この研究会に参加し、あらためて24時間働いている腎臓の肩代わりを週3回4時間で済ます無謀さを痛感した。たんぱく質が悪者ではない。リンが上がりえない透析、合併症を起こさない透析を考えるなら「透析時間」を延ばすしかない。合併症の症状が10年先にしか出ない透析治療。4時間も長く感じている皆さんにどうやってこの長時間透析を理解してもらい、時間を作っていたかが大問題と思いがら雪の北海道を後に神戸に帰ってきた。第4回はここ神戸で坂井瑠実が当番幹事として会を主宰することになっている。

全員が6時間透析！

臨床工学科 技士 竹下 薫

12月9日長時間透析研究会に出席すべく極寒の地北海道に飛び立った。気温-10度。現地の人にしてみればこれでも暖冬なのか、歩いている人たちは薄着の人が多いように感じた。まずは豪華に腹ごしらえをして夕方から始まる研究会に臨んだ。長時間すればヘマトクリット値が上昇し、尿毒素の平均値が下がり、長期の透析合併症の発症頻度が低くなる事が報告され、よい治療効果をもたらしていることが理解できた。しかし治療時間が長くなることに對する不安や不満を、いかに解消するかが最大の課題と感じた。長時間透析全国No.1の佐賀県の前田病院では、導入期を除いて全員6時間透析をしている。6時間が普通の透析時間で、時間に対するクレームはほとんどなく、4人で1台使用のテレビのチャンネル争いのほうが問題との事。ダイヤライザーの面積や性能を少し落として、ゆつくりと長く透析をすれば血圧低下も防止できている。今回の研究会で、長時間透析は患者さんのQOLを向上させる最良の治療法だと感じた。スタッフとしては患者さんの元気な姿が最大の喜びであり、やりがいとなるので、今後もっと勉強して自分の専門分野を長時間透析に生かしたいと考えている。



スタッフ・患者さんへ指導・教育を

看護部 松本伸子

平成17年より長時間透析研究会が発足し、長時間透析の効果・成果がデータのにも証明されだしてきた。頭では理解していても、実際にスタッフや患者さんへの教育・指導・実行はかなり難しい。まず情報を提供し、「長時間透析がよい！」ということを共感し、実施して、普及に協力してもらえる患者さんを増やすこと。そこから自然発生的に長時間透析が必要であると実感してもらえたなら、患者さんの健康状態はもちろん、スタッフサイドの負担も軽減され、よりよい医療を提供できる環境を作ることが出来ると考える。

透析中も少しづつではあるが、患者さんに折に触れ透析時間を伸ばすように」と声かけを行っている。長時間透析は、貧血改善はもとより、長期透析における合併症の予防に大きく影響するため、少しでも早い時期から実施してもらえよう、指導・教育していきたい。

また、スタッフの勤務体制等今後検討していきたい。今回長時間透析研究会に参加し、より実体験し感じることが出来よかつたと思う。



岩見沢駅のばんゆう競馬像

長時間透析などとても無理だと 思っていたけれど

看護部 安野美穂

検査データをきちんと把握して生活を改め、スタッフ・家族・夫婦と一緒ががんばっている人達の中にも「透析にかかる時間は大切にしたい。これ以上透析時間を増やすことは苦痛以外のなにものでもない。」という意見をたくさん聞いてきた。透析に束縛される時間は一生続くのであるから無理はないと思っていた。しかし健康な人が絶えず行っていることを2〜3日に1回、4〜5時間で済ませようということと自体が無謀なことだとも思っていた。そしてやはり経営的に考えると、長時間透析などとても無理なことであると解釈していた。

今回研究会に参加させていただき、データや患者さんのQOL等が改善されていることが顕著に表されていて、自分の中の考えが漸く変わっていった。データ改善により、身体的・精神症状の軽減が見られ、透析中のリスクはもちろんのこと生命予後の改善が報告された。

また、合併症の抑制や薬の減量などは経営的な問題をも解決の方向へ導いてくれると思えた。このような現実を患者さんやスタッフに受け入れてもらわなければならぬが、それぞれのQOLの向上を前提に、確かなことと必要なことであるということを説明し続けていくことが大切であると考ええる。

皆さん！自立してください！

看護部 井下みどり

身体によいとわかつていのに、なぜ長時間透析や隔日透析が普及しないのでしょうか？経費やスタッフの問題、保険点数等々、問題は山積で、長時間、隔日透析を良いとしない風潮があるように思えます。

しかし、どこかで誰かが行動を起こさねば前には進まず、普及もしません。患者さんによいことは実行したいと思います。その為には患者さんに自立していただき、自分で考え、自分で出来ることは自分で行うこと。今まではあまりにも「あなた任せ」の透析だったと思いませんか？あくまでも自分の身体です。自分で管理し、合併症を作らず、元気で自分の命を守り全うすることを考えてください。スタッフはそういう皆さんの透析のサポーターでありたいと思つています。そうして当クリニックからよい透析医療を発信していきたいと願っています。





12月17日、神戸神仙閣において17時～19時の予定で「第8回友愛会クリスマス会」が開催されました。小雨からみぞれ、あられ(っ)模様の中ではありましたが、患者、家族、スタッフの方々(子供を含む101名)の参加に、今回初参加の私は感激しました。

精松会長の挨拶、続いて坂井理事長の「透析治療においては、膜も水もよくなっている。これからは長時間透析が第一である。」と力強く暖かいお言葉を頂き、喜田院長の乾杯で始まりました。食べきれない程の豪華な料理の数々や飲み物が次々にテーブルに並べられ、プロのシャンソン歌手による歌を聴きながら会食、歓談にお腹も心も大満足。そして、大いに盛り上がったカラオケ大会。シャンソンから詩吟、ポップス、演歌と多彩でセミプロ級の歌声に聴きほれ、曲にあわせてのダンスにも堪能させて頂きました。近藤さん、池田さんを偲び、生前大好きだった歌「青春時代」を大合唱。芦屋は「大阪ラブソング」を全員で歌いました。そして、中村さん扮するサンタクロースから子供たちへのプレゼント、三角クジ抽選会、じゃんけん大会等々、とても楽しいひと時でした。中でも圧巻は「河内音頭」による総踊り、何十人の踊りの輪に、動きづら私も引き込まれそうな程の盛り上がりでした。最後に伊丹さんと村井さんによる漫才にも似た宣言「透析時間を少しでも長くしよう!!」で、大笑いの中、40分延長での閉幕でした。

初めての参加でしたが、来年もぜひぜひ多くのスタッフ・患者さんの参加で、楽しいひと時が過ぎ、今以上の交流が図れたらと思いつつ会場を後にしました。



「ジャスミン」池田さんを偲んで・・・

池田 太一さんを偲んで

定森 孝弘

去る12月12日(火)午前11時前に突然の訃報メールが入った。昨夜、NPO法人ジャスミン事務局次長の池田さんがお亡くなりになられたと。しかも東部事務所で。私は仕事で入ったが、なぜ? どうして? 事務所で何か突然具合が悪くなったのか? などと思ったのだが、池田さんから直接、最近のお身体の具合の事は聞いていて、このところ大きな手術を数回されており、透析の方も心臓や血圧等とかの関係もあって大変だったと聞いていたので、無理もないのかとも思ってしまふ。(昔の元気な頃の池田さんを知っているだけに・・・)

池田さんとは、私が腎友会神戸ブロックの活動に参加(現在NPO法人兵腎会)した頃からの付き合いでした。池田さんは腎友会活動の先輩で、病院も当時(平成6年頃)同じ住吉川病院だったので、会活動に病院患者会・難病相談会等、何かとお世話になっていました。そして、いつも明るく元気で行動力のある池田さんに誘われ、現在のNPO法人ジャスミンを立ち上げる時も、その熱意に賛同したことが思い起こされます。

いつもその中心的な存在である池田さんが居なくなって、寂しい状態ではありますが、池田さんの意志を継ぐ意味でも、ジャスミンの活動を充実していかねばなりません。池田さん(池ちゃん)本当に今までありがとうございました。ゆっくりとお休み下さい。

平成18年12月11日、池田さんが天国に旅立たれました。
平成10年坂井瑠実クリニック患者会「友愛会」幹事。
平成11年送迎支援の会「ジャスミン」発足。
腎友会神戸ブロック役員。神戸市難病連絡協議会理事。
NPO法人「ジャスミン」理事。等
自らも障害を持ちながら、患者会活動や送迎活動を活発にされ多くの功績を残されました。
感謝の気持ちを込めてメッセージを送ります。
池田太一さん!いつもニコニコの笑顔をありがとう。
そしてお疲れさまでした。

池田さんを偲んで

竹内 稔

池田さんが亡くなったのが今でも信じられません。みんなから池ちゃんと慕われ、何をやるにも全力投球、パワフルでみんなを惹きつける魅力のある人でした。自分の身体が少し悪くなくても、先頭になってジャスミン、即ち透析者・難病者の通院支援のことをいつも考えられておられました。もう頑張らなくてもいいですよ、天国でゆっくり休んでください。ご冥福をお祈りいたします。

東 敬子



洗濯をしていたのを覚えています。一回目の年女は昭和四十六年(十二歳)。兵庫県賢

新しい年を迎え、皆様のご健康とお幸せをお祈り申し上げます。

今年亥年で私は年女になります。当たり年は、良きにつけ悪しきにつけ変動のある年回りになり、節分には厄払いをするそうなので、私も今年厄払いに行こうと思っています。

私の生まれた昭和三十四年の出来事

一月一日、メートル法施行。

一月十四日、第三次南極観測隊が前年基地に残した犬のうちタローとジローを確認。

四月十日、皇太子成婚式(今上天皇)。

四月十六日、国民年金法公布。

八月十三日、在日朝鮮人帰還協定調印。

(十二月十四日第一船出発)。

九月二十六日、伊勢湾台風。

死者・不明5098人

この年に生まれた国民年金は、現在とても大きな問題を抱えることになっています。当時は、戦後の高度成長期で、次々と電化製品が家庭の中に入ってきました。4、5歳のころ白黒のテレビで鉄腕アトムを一生懸命みている自分の姿を覚えています。当時の家は木造の借家で、狭いながらも庭があり黒いコッカスパニエルを飼っていました。小さい犬のはずですが、当時の私には大型の恐い犬に見えました。母は着物に割

烹着姿で炊事や洗濯をしていたのを覚えています。

一回目の年女は昭和四十六年(十二歳)。兵庫県賢

友会が設立された年です。その数年前に団塊の世代の方々が学生闘争をされてきました。翌年には沖縄返還に伴い沖縄県が誕生。グアムの横井庄一さんが救出されました。

当時の私は「8時だヨ!全員集合」を毎週日曜日楽しみにしていた小学生でした。

二回目の年女は昭和五十八年(二十四歳)。兵庫県透析医会が設立された年です。東北大学医学部で日本初の体外受精着床成功。翌年グリコ森永事件で似顔絵公開され、当時大学生だった私の同級生が似顔絵にそっくりだったため、近所の通報で3回も警察に事情聴取されたのを覚えています。

三回目の年女は平成七年(三十六歳)。この年はどなたも忘れることのできない経験をした阪神淡路大震災の年。前日の夜は道路が凍結し、とても怖い思いをしながら裏六甲から表六甲まで帰ってきた翌朝、私も体験しました。午前5時46分・マグニチュード7.2・震度7・死者6400余人。私の住んでいたところは43号線沿いで、高速道路が倒れたところから少し東側でした。そのころの様子を兵庫県賢友会三十周年記念誌の座談会で読ませていただきました。透析が出来なくて亡くなられた患者さんはおられなかったとのこと。皆様のご苦勞が如何程であったかとお察し申し上げます。

あれからさらに十二年が経ち今年・平成十九年。四回目の年女を迎えることになりました。震災の経験を生かして災害に強い透析施設を設立された坂井瑠実先生のクリニックにお世話になって3年が経とうとしています。今年はどうな出来事が起こるかわかりませんが、クリニックの理念のもと、益々精進して、皆さんに役立つ仕事をしていきたいと思っています。

クローズアップ Close up

生きるという事

森南 正子



Profile

合併症など無いように見える色白でにこやかな森南正子さんが、透析暦32年と聞くと誰もが驚きます。2倍3倍の自己管理をされてこられたのでしょうか。ご主人の昌之さんも20年を超える透析患者さんでしたが、3年前に献腎移植を受けられました。今は時々奥様の送迎を担っておられます。大の犬好きで、昨年戌年のうえるうえるの新年号の表紙を飾ったのは森南夫妻の大事な家族タローくんでした。

入院さえすれば、必ず病気が治るものだと信じていた高校生の私。でも、いくら模範的な入院患者でも治らない病気があるのだと思い知らされました。1年半のステロイド治療による入院生活。そして、昭和49年6月、透析導入。当時の透析は、今の快適な…？天国のような…？透析とは違い、本当に苦しいものでした。穿刺するのも注射針が太いため、痛み止めの注射をしてメスで皮膚を切開し、そして刺すというもの。除水も1キロを引くのがやっと。1日の飲水がヤクルト1本という日もありました。また、透析開始と同時に嘔吐を繰り返し、血圧低下で意識がなくなり気が付けば透析が終了しているという日々でした。特に、シャントには苦勞しました。初めは、外シャントでしたが、毎日のように閉塞し、内シャントもなかなかうまくいかず、毎週のように手術室に入ってい

た気がします。その日1日を生きるのが精一杯だった私でしたが、1年経ち、ようやく通院になりました。そして、ふと周囲を見渡せば同級生は、大学生や社会人になり新生活を送っていて、私1人が取り残された気がしました。私も何か出来る事はないかと車の免許を取得したり、医療事務の勉強も始めました。そんな時、病院から仕事をしてみては…と、言って頂き勤めることができました。初めて給料を頂いた時には、こんな私にも出来る事があるのだと感動し、又、自信にもなりました。中途になっていた高校も、その後頑張っ

てチャレンジし卒業証書を手にすることができました。それから、32年。医学の進歩は目覚ましく、一年一年、いえ、一日一日、透析技術も進歩しています。30年前、透析しても5年の命だと言われていたのが昔話になりました。今、この素晴らしい医療で透析が出来る事に感謝し、これまで私に接して下さいました全ての皆様へありがとう！と伝えたいです。

何度か生死をさまよった私ですが、今、こうして生きています。生かされています。「まだまだ、頑張れ！」と、言ってくれる誰かの声を聞きながら…

祝!おめでとうございます!



平成18年10月22日第8回臓器移植全国大会において、臓器移植対策推進功勞者に対する厚生労働大臣感謝状が福西先生に授与されました。



編集後記



編集委員
平尾 真弓

あけましておめでとうございます。

今年も亥年です。六甲山のふもとにはよく猪が出没し、街中에서도見かけることがあります。今回のうえるうえるの表紙は、町に出てきた猪の写真にしようと思いましたが、決まらなかつたので、お断念してしまいました。表紙の写真、原稿等、今年も皆様に御協力いただき、より良い機関紙にしていきます。よろしくお願いいたします。



発行所

医療法人社団
坂井瑠実クリニック
電話〇七八一八二二一八一
一六五八一〇〇四六
神戸市東灘区御影本町二丁目二一〇
発行責任者 坂井瑠実
顧問 三上珠実
編集責任者 城井慶子
発行日 平成十九年一月三十一日
印刷 田中印刷出版株式会社
〒六五七二〇八四五
神戸市灘区岩屋中町
三一―四